

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月18日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①個別最適な学習や多様な進路選択に対応できるよう、教育課程を編成する。 ②生徒が自ら学ぶ意義を客観的に捉える力を高め、「探究力」を育成する。 ③生徒一人ひとりが意欲的に取り組める行事・特別活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。	①設置科目や評価方法を見直し、個別最適な学びを提供する。 ②「主体的に学習に取り組む態度」の適切な評価方法について検討し、生徒の学習意欲を引き出す。 ③生徒が意欲的に参加する行事・特別活動等を実施し、主体的に行動する力の伸長を図る。	①各教科からの意見や、「生徒による授業評価」の結果等を集約、分析し、研修会等を通して、教職員の共通理解を図る。 ②教職員向けの授業研修会を年3回以上計画的に実施する。 ②夏期講習の受講を促し、生徒の学力の伸長に結びつける。 ③行事・特別活動等の実施の際には、生徒会本部役員や委員会・部活動等の生徒と意見交換を重ね、生徒自らが主体的に行動する機会を積極的に設ける。	①各教科からの取組に係る意見、報告内容、「生徒による授業評価」の実施結果、研究授業の成果と課題点を分析する。 ②「生徒による授業評価」の実施結果、研究授業の成果、夏期講習の受講率等を分析する。 ③行事前に生徒会本部役員や委員会・部活動等の生徒と打合せを持ち、主体的に運営できるように働きかける。また、行事後にアンケートを実施し、生徒の満足度を調査し、8割以上の生徒の満足度を目指す。	①生徒による授業評価の数値を分析し、生徒が何を理解して何の理解が不十分か、教科で確認した。 ②「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準を明確にした研究授業を実施し、評価方法について職員全体で共通理解を図った。 ③体育祭・文化祭は生徒の満足度も高く（両方とも9割以上を達成）、充実した行事が実施できた。また、各行事の運営には、委員会や部活動の生徒は主体的に参加した。	①生徒による授業評価の分析内容を生徒に伝え、生徒にもどう改善すればよいか考えさせる。 ②授業を担当する教員に負担が多くなってしまったため、教科全体で一つの研究授業を作り上げる必要がある。 ③より多くの生徒が主体的に参加できるように、生徒と意見交換を重ねるとともに、様々な場面で活躍した生徒を積極的に紹介していくなど、自己肯定感を高める取り組みを進めていきたい。	①②「生徒による授業評価」の数値結果等から、生徒の主体的学びの姿勢と、課題解決に向けた積み重ねは一定の成果をあげてきていると考える。中学校の時より思考力、判断力、表現力が高められてきている。大人たちが興味関心をもって生き生きと活動することが大切である。 ③部活動や学校行事に対して生徒が主体的に関わっていくことが重要である。	①生徒による授業評価を教員の授業改善だけでなく、生徒自身の学習意欲等の向上に役立てる。 ②研究授業の反省会から、職員の授業力向上の意欲が多数見られたが、校内授業研究期間に授業見学をしなかった教員が16%いた。 ③生徒が意欲的に参加する行事・特別活動等の実施ができた。一部の生徒・教員だけでなく、学校全体で協力していく仕組みづくりが必要であると考える。	①生徒による授業評価の分析内容を生徒へフィードバックし、生徒自身の振り返りの資料とする。 ②研究授業のテーマ決めから職員全体で考え、学校一丸となって授業力向上の意識を高める。 ③生徒の意見だけでなく、教員の意見も確認し、双方が意欲的に取り組める仕組みづくりに努める。
2	生徒指導・支援	①行事・部活動等を通して、「協働」の精神の涵養を図り、自己及び他者を尊重する態度を養う。 ②地域とかかわり、地域から愛され、信頼される生徒を育成する。 ③個に応じた教育相談体制の充実を図る。	①持続可能な行事・部活動の運営体制を整備し、生徒の主体的な活動を通して、自己及び他者と協力して取り組む態度を養う。 ②生徒が自己肯定感を持てるようにするとともに、基本的な社会規範を尊重する態度の定着を目指すし、学校全体で継続的に指導を行う。 ③こころのサポート事業や相談箱の利用を通じて生徒が気軽に相談ができる体制作りを進める。	①生徒・教職員と丁寧にコミュニケーションを取り、行事や部活動等に積極的に参加できる仕組みを整える。 ②掲示物やＨＲ等で、貴重品の管理等、日常生活の注意点を周知するとともに、頭髮や服装等も定期的に指導を継続する。 ③各学年に教育相談係を配置し、生徒へ周知するとともに、学年会において情報交換を密に行う。 ③学年会等からの情報をもとに、必要に応じ速やかにケース会議に繋ぐ。	①部活動加入率や部活動の活動継続率の向上を図る。地域と連携した行事の実施に取り組む。 ②日常の指導を通じて、社会規範の基本的な習慣づけができてきたか。また生活指導に係る指導対象者が減少したか。 ③生徒からの相談件数の推移を把握するとともに、適切なタイミングでケース会議が開けたか。	①部活動加入率（1年：78%、全体：67%）、部活動継続率（1年 89%、全体：94%）ともに好調であった。また、地域の行事等にも積極的に参加できた。 ②頭髮や服装指導について指導件数は減少傾向、遅刻指導については学年を経るに従い増加傾向にある。特別指導は件数及び人数ともに明確な減少には至らず、重大な事案につながるケースが目立った。また、希死念慮のケースが増加した。 ③「かながわサポートドックアンケート」の取組の現れもあり、相談件数は増加傾向にあるが、経過報告等が十分とはいえない。コア会議、ケース会議等は適宜開催することができた。	①教員と生徒が積極的にコミュニケーションを図り、共通認識をもって部活動に取り組める体制づくりを心がけたい。 ②不登校傾向や特別指導等に至る前に、日ごろからきめ細かく生徒を支援する学校として仕組みを構築するとともに、適切な報告・連絡・相談の体制づくりを進める必要がある。また、重大な事案の未然防止に努める。 ③相談件数、会議及び相談後の経過観察及び報告が、生活支援グループを中心に、速やかに適切に行われるよう取り組む。	①②③課題を抱える生徒に対して、学校内での支援体制の充実を今後ともお願いしたい。こころの悩みについて相談できる環境があるというのはとてもよいことである。ＩＣＴツールを活用した課題の把握等についても、今後進めていくことが求められるのであると考える。 ③「いのちの授業」等で地域の人材を活用して何かできないか、連携の方向性を模索し、実現につなげていきたい。	①自己及び他者と協力して取り組む態度を養った。持続可能な運営体制を目指し、地域も含めて協力体制を模索していく。 ②生徒が自己肯定感を持てるようにするとともに、基本的な社会規範を尊重する態度の定着を目指し、学校全体で継続的に指導を行うことができた。教職員の入れ替わりがあることから常に組織的に取り組む ③教育相談については引き続き組織的な取組ができるよう取り組む。	①充実した取り組みができるように教員と生徒が積極的にコミュニケーションを図り、共通認識をもって部活動に取り組める体制づくりに努める。 ②不登校やいじめ事案等に対、個々の生徒に応じた支援の方策を検討・作成することにより、よりきめ細やかな支援を行う。 ③生徒指導や不登校傾向など多様な生徒を支援するため、報告・連絡・相談体制を確立し、生徒や学年等に対して支援する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己と社会を見据え、社会に求められる力を育むためのキャリア教育の確立を図る。 ②生徒の第一志望実現に向けた、進路支援の確立を図る。	①外部の教育力を活用した授業等をより充実させ、地域社会と多く関係性をもつ中で、生徒が自己と社会を深く理解し、主体的に探究しようとする態度を育成する。 ②生徒が納得のいく進路実現を果たせるよう、教職員全体で共通性のあるキャリア支援を実施できるようにする。	①3年間を見通した「総合的な探究の時間」の計画を策定し、それを基により深い地域との関係性を構築した授業展開と、外部講師の適正かつ豊富な利用機会を設ける。 ①長期休業中のキャリア育成講座数を昨年より増加させる。 ②教職員向けの実力テスト振り返り機会(研修)を計画実施する。 ②教職員向けにキャリア教育や進路情報に関する資料を活用し、情報共有を図る。	①「総合的な探究の時間」を計画的に沿って実施し、外部の教育力の活用を推進することができたか。 ①長期休業中のキャリア育成講座数を昨年5講座より多く開講できたか。 ②教職員向けの実力テスト振り返りの機会を計画的に実施することができたか。 ②キャリア教育と進路情報に関する資料を年間15回以上配付、活用することができたか。 ①②「総合的な探究の時間」の生徒アンケート結果を、全学年で向上させることができたか。	①「総合的な探究の時間」を計画的に運営し、地域との関わり合いの中で探究プログラムを実践することができた。長期休業中のキャリア育成講座においては、冬期講習で初めてキャリア育成型講座を開講し、地域や教育関連機関、外部講師などと生徒が関係を持つ機会を設けることができた。 ②教職員のキャリア(進路指導)意識の向上に向け、実力テストの振り返りを実施するとともに、キャリア教育や進路指導に関する資料を配付したが、回数は10回と目標を下回った。 ①②「総合的な探究の時間」生徒アンケート結果について、1・2学年の各評価項目の向上を果たすことができた。	①②より多くの生徒がキャリアアップにつながる学びの機会を得るために、教職員が探究的な学習への意識を高め協力し合い総合的な探究の時間を中心とした教育実践が繰り返し広げられ必要がある。そのために本校のキャリア教育実践プログラムを再度確認し合い、目標の共有を図っていく。	①サークルアクション等の「総合的な探究の時間」の取組で地域との連携が図られてきた。私たちの想像を超える発想もあり、刺激的だったが、一方で企業、地域の実態について認識の乖離する部分もあり、今後埋めていく必要があると考える。 分野、世代の異なる人たちとの交流をさらに深めて、地域人材の活用を有効に行ってほしい。 ②教職員自身が違う分野のことを積極的に取り入れていく姿勢を持つことが重要である。自分の担当でないことを知ることにより、それをさらに深めることがよい結果を生むことにつながる。	①「総合的な探究の時間」や長期休業中に実施したキャリア育成型講座等の取り組みにおいて、地域の方々や企業、大学と連携し幅広く学びの機会を提供することができた。 ②進路実績の結果より、高い目標設定を行い到達した生徒と、計画と準備が不十分だった生徒、目標設定が能力を引き出し切れていないと考えられる生徒に分かれており、全体の大学進学率は3年連続で70%以上を維持したものの、昨年より進学者数が減少、進路未決定者も増加割合となった。	①地域や企業、大学と連携し取り組むことの趣旨を、キャリア育成プログラムを中心に広く周知する機会を増やし、職員全体のキャリア育成観として根付かせる。 ②高い目標設定と自己実現を果たす生徒の割合を増加させるために、下支えの支援意識と生徒の意識を高め、能力を引き出すボトムアップを行えるよう、根拠資料の提示や方策の提起を根気強く行っていく。
4	地域等との協働	①地域との交流や活動を積極的に行い、生徒が主体的に活動する場を提供し、地域とかかわる力の育成を図る。 ②学校運営協議会等を活用し、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①地域との交流や活動の中で生徒自らが思考、判断し行動できるように支援していく。地域から期待され応援される生徒の育成を図る。 ②学校運営協議会等を活用し、地域等の外部からの意見等を聞く機会を設ける。	①生徒が地域との連携を実感できる企画を立案し、生徒自身が思考する場面を増やすとともに、企画段階から生徒の活動の機会を増やしていく。 ②対面による学校運営協議会を開催する。適切に資料の配付(発信)を行い、書面等できめ細かく情報交換を行う。	①各活動において振り返り等を行い、生徒が活動を通じて考えたことや判断できたことをまとめる。主体的な活動を実感できる関わり方をさせることができたか検証する。 ②学校運営協議会の場を活用し、意見を広く聴取し、実際の取組に活かすことができたか。	①地域との交流、すこやかサークル等の活動において、生徒自ら考え活動する場面が多くみられたが、振り返り等の時間の確保が難しく具体的に次の活動につなげていくことは引き続き課題である。 ②地域の方の声や学校運営協議会での意見を集約し、各グループ、行事、部活動等実際の活動に活かしていく事ができた。	①各行事の準備時間と振り返りの調整が難しい現状があり、限られた時間をどのように展開していくかについて、他のグループとも共有し、学校全体で交流活動、生徒の学びの場としていけるように支援をしていきたい。 ②学校運営協議会で共有した意見を学校全体で共有し、実際の活動に活かしていくようにしていく。	①地域行事への生徒の参加について、今後ともお願いしたい。文化祭の時に実施する「すこやか祭り」等において、生徒がもっと前面に出て地域の人や来場する子供たちとも関わっていくことを望みたい。	①地域との交流を通じて、生徒が自ら思考判断し活動する事ができた。活動後の振り返りの時間が取り辛く生徒の学びの実感を得ることが課題である。 ②学校運営協議会を通して得た意見を学校運営にいかし、取組につなげることができた。今後さらに活かしていくことが引き課題である。	①授業時数確保の必要もあり、フォームによる振り返りや思考を要するアンケート作りなどICTを活用して授業時間外でも取り組める課題の作成を行う。 ②提起された意見を全職員間で共有し、グループだけではなく教科等でも実践していけるように取組を進めていく。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に対応し、適切な設備・備品管理や環境整備等に取り組む。 ②生徒・職員の防災意識の向上を推進し、地域に開かれた学校として連携を図る。 ③職員の事故・不祥事防止に努める。	①教育環境の変化及びICT活用のさらなる推進に伴い、運用に適した備品等の管理・整備を図る。 ②教育活動全体をととして防災教育を実施し、地域と連携した防災対策を推進する。 ③教育への信頼と生徒たちの安全・安心を守るために、職員の認識を深める。	①教職員の働き方改革を推進するとともに、教育環境及びICT機器等の管理や整備に取り組む。 ②地域と連携した防災活動や、教科等と連携して効果的な防災教育等を実施する。 ③事故・不祥事防止研修を、時宜にかなうテーマで定期的に実施する。	①ICT機器等の管理や設備等の整備・活用を推進できたか。持続可能な教育環境整備等に取り組めたか。 ②地域や教科等と連携した防災避難訓練(防災教室等を含む)を実施できたか。 ③適切な研修テーマを設定し、実施できたか。	①今年度新たに電子黒板設置に伴う、準備等を進め、教室等の環境整備も進めることができた。また、職員会議資料のペーパーレス化を実現した。 ②第1回は、地震想定で実施した。新しい取組として予告なしで余震訓練を行った。第2回は、近隣の保育園と同日に防災訓練を実施した。 ③今年度は全3回の事故・不祥事防止研修を計画、実施した。教職員人権研修では、本校卒業生を講師に招き、障害を持つ方の視点から困り感等を学び、障害を持つ生徒への理解を深めることができた。	①教育環境等を含め、ICT機器や設備等の整備・活用を推進していきたい。さらに、ペーパーレス化の推進を図りたい。 ②今後も防災避難訓練やDIGで、地域や教科等と連携した取組を実施していきたい。そのためには、協同で実施可能な日時の設定を検討する。 ③事故・不祥事問題は、県として喫緊の課題である。職員同士の同僚性、組織力向上を目指し、教員同士のコミュニケーションを図るために、適切な研修計画を検討する。	②防災訓練等で近隣施設と連携する体制を作るのはよい動きである。今後さらに連携を深めて、地域としての防災力を高めていければと考える。	①教育環境及びICT機器等の整備について、電子黒板の設置等を適切に進めることができた。ペーパーレス化は、より一層推進を図る必要がある。 ②防災訓練について、内容を工夫することで新しい取組を実施することができた。より一層の地域との連携を図ることが課題である。 ③学校独自で事故・不祥事防止研修を実施できたことは大きな成果である。	①ICT機器が増えてきたため、管理等の工夫をする。SDGsの観点からも教職員の協力を得て環境整備に取り組む。 ②防災訓練やDIGは、地域や教科等と調整し、より密接に連携を図っていく。 ③教職員の人権研修について、適切な研修テーマを計画・実施する。